



トナミホールディングス
(HD)や朝日印刷など県内
外7社が共同出資する「アル
ハイテック」(高岡市オフィ
スパーク、綿貫勝介社長)は



アルハイテック

廃アルミから水素製造

富山で検証。プラント稼働

22日、アルミ系廃棄物から水素を製造する独自システムの実用化に向け、朝日印刷富山工場(富山市中町板倉)の敷地内で検証プラントを稼働させた。将来のシステム販売に向けて、稼働データを収集し改良などに役立てる。プラントは分離機と乾留炉、水素発生装置で構成する。

医薬品や食品用の包装資材の製造過程で出る端材など、アルミがコーティングされている紙廃棄物から高純度のアルミを回収。特殊なアルカリ溶液と反応させて水素を発生させる。処理の過程で

朝日印刷富山工場の敷地内に設置された水素発生装置。富山市中町板倉

パルプや水酸化アルミなども取り出し、それぞれ再資源化する。

水素発生装置は1時間当たり2トンの水素を作ることができ、今後は5トンを増やす予定。水素5トンを燃料電池車を約700キロ走らせることができるという。一連の事業はNEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)プログラムに採択されている。

22日は現地で完成披露会があり、綿貫社長とアルハイテック会長を務める炭谷茂・元環境事務次官、高岡市出身の朝日印刷の濱尚社長ら約60人が出席。綿貫社長は「プラントを活用して将来の製品化につなげ、環境エネルギー社会に貢献したい」とあいさつした。